

# 目 次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| I . 和歌山大学南紀熊野サテライトについて     | 1  |
| 1 . 南紀熊野サテライトの紹介           | 1  |
| 2 . 2つの受講制度                | 2  |
| 3 . 受講モデル                  | 4  |
| II . 大学院科目等履修生の募集          | 5  |
| 1 . 出願および履修願の手続き           | 5  |
| 2 . 出願書類等                  |    |
| ㊦南紀熊野サテライト大学院科目等履修生願書      | 7  |
| ㊧履歴書                       | 8  |
| ㊨令和4年度前期検定料の納入について         | 9  |
| ㊩履修願                       | 10 |
| III . 学部開放授業受講者の募集         | 11 |
| 1 . 聴講申請の手続き               | 11 |
| 2 . 申請書類等                  |    |
| ㊪学部開放授業受講者聴講申請書(新規聴講生用)    | 13 |
| ㊫学部開放授業聴講申請書(登録有効期間中の聴講生用) | 14 |
| ㊬令和4年度前期学部開放授業の聴講料の納入について  | 15 |
| ㊭学部開放授業申請書類受付通知はがき         |    |
| IV . 令和4年度前期 南紀熊野サテライト開講授業 | 16 |
| 1 . 大学院授業科目                | 16 |
| 2 . 学部授業科目                 | 19 |

# I. 和歌山大学南紀熊野サテライトについて

## 1. 南紀熊野サテライトの紹介

■和歌山大学南紀熊野サテライトは、大学の研究・教育機能を活用して地域づくりに貢献する「大学の地域ステーション」をめざしています。

■地域社会と共に育ちあう、創造的な教育、研究、社会連携活動を行います。

和歌山大学南紀熊野サテライトは、地域の現実に対峙し、4つの視点から地域社会と共に育つ、創造的な教育・研究、社会連携活動をめざします。

1. 地域の知の拠点として
2. 大学の知的財産は地域資源
3. 地域・産・学・官みなが共に成長する仕組みづくり
4. 地域知の可能性を引き出す

和歌山大学は和歌山県との連携にもとづき、平成17年4月、県立情報交流センターBig・uに南紀熊野サテライト(設置当時は紀南サテライト)を開設しました。

南紀熊野サテライトは全国の地域型サテライトのさきがけであり、下記の事業を行っています。

1. 地域住民の多様な教育ニーズに対応した特色ある高等教育の実施
2. 地域研究の推進および地域の課題をふまえた生涯学習の機会提供
3. 地域自治体、企業等と連携した地域活性化に資する事業の実施
4. 高校を含めた地域に対する大学情報の発信

### 地域課題に沿った科目を開講



大学院科目の様子



機材を使った演習の様子



学部開放科目の様子



「世界農業遺産」現地実習の様子

## 2. 2つの受講制度

和歌山大学には、社会人等を対象とする「大学院科目等履修制度」と「学部開放授業受講制度」（※高校生は「高校生を対象とした大学授業の公開制度」）があり、それらを南紀熊野サテライトで利用できます。

令和4年度前期に南紀熊野サテライトで受講できる制度の概要は以下のとおりです。

|          | 大学院科目等履修制度   | 学部開放授業受講制度   |
|----------|--|--|
| 区 分      | 大学院科目等履修生  | 学部開放授業受講者  |
| 資 格      | 大学を卒業した者又は学校教育法施行規則第155条の規定により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者   | 18歳以上<br>※高校生は「高校生を対象とした大学授業の公開制度」をご利用ください。<br>詳細は和歌山大学ホームページをご覧ください。<br><a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/class/koudai">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/class/koudai</a> |
| 選 考      | 願書および履歴書等による選考   | なし（年齢確認のみ）   |
| 成績評価     | あり   | なし   |
| 単位認定     | あり（成績評価「合格」の者）   | なし   |
| 費 用      | 検定料 5,000円<br>入学科 10,000円<br>授業料 14,400円（1単位につき）<br>※令和4年度前期より「履修できる期間」の制度廃止に伴い、履修期間（1学期又は1年）毎に検定料と入学科及び受講料を徴収します。<br>ただし経過措置として、令和3年12月31日時点において、履修できる期間の残期間がある科目等履修生については、有効期限までは今までどおりとします。（有効期限が2022年4月1日以降の科目等履修生は、検定料・入学科は不要です。） | 聴講料 11,000円（1科目）<br>※令和4年度前期より登録料の制度が廃止されます。経過措置として、令和3年12月31日時点において、登録期間の残期間がある開放授業生については、従前の例による。（令和3年度後期に登録した方は令和7年度前期まで現システムが有効。1万円の授業料となります。）   |
| 修士課程への進学 | 社会人特別選抜を経て、経済学研究科修士課程に進学することができます。   |  |

### 大学院科目等履修制度とは

#### 【概要】

- 大学院の授業を原則、土曜日の日中を中心に、Big・u(田辺市)で開講します。  
フィールドワーク(現地調査)を行う授業もあります。
- 入学資格は、大学を卒業した者又は学校教育法施行規則第155条の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、書類審査等による選考があります。
- 科目等履修生として入学し、受講後に合格判定を受ければ、所定の単位を取得できます。
- 本学(栄谷キャンパス)および岸和田サテライトで開講される大学院授業についても、科目等履修生として受講することができます。

- 1学期毎(通年科目は1年毎)に履修申請が必要です。
- 令和4年度前期より履修できる期間の制度(履修期間)が廃止され申請制度が変更されました。

#### 【履修可能期間】

○初回の受講時に検定料と入学料を納入すると、「履修できる期間」として入学から2年間は、その後に受講しても検定料と入学料を免除してきましたが、令和4年度前期より「履修できる期間」の制度を廃止します。

ただし経過措置として、令和3年12月31日時点において、履修できる期間の残期間がある科目等履修生については、有効期限までは今までどおりとします。この場合、所定の履修願による手続きは必要ですが、検定料・入学料は必要ありません。

#### 【和歌山大学大学院経済学研究科修士課程への進学】

令和3年度から経済学研究科改組に伴い、プログラム制となっています。経済学研究科に進学希望の方は、出願前に修了要件等について問い合わせ先までご照会ください。

##### ○既修得単位認定制度

南紀熊野サテライトの科目等履修生が本学大学院経済学研究科に入学した場合、本サテライトでの取得単位を含め、入学前に本学および岸和田サテライトの大学院科目等履修生として修得した単位は、18単位を上限として修了に必要な単位数に算入できます。

##### ○社会人短期履修制度

本研究科修士課程社会人特別選抜の出願資格を満たし、本研究科科目等履修生として6単位以上を修得していれば、通常は修了に2年かかる修士課程を、最短1年で修了することもできます。

※改組に伴い令和3年度以降は、「南紀熊野サテライトコース」を利用することはできなくなりました。

### 学部開放授業受講制度とは

#### 【概要】

○学部開放授業(連携展開科目)を土曜日の日中を中心にBig・u(田辺市)他で開講します。18歳以上(高校生は2ページをご覧ください。)であれば受講者として登録できます。試験等による成績評価や単位認定もないため、関心のある授業を気軽に受講していただけます。

○令和4年度前期より、申請制度が変更されました。(登録料制度の廃止)

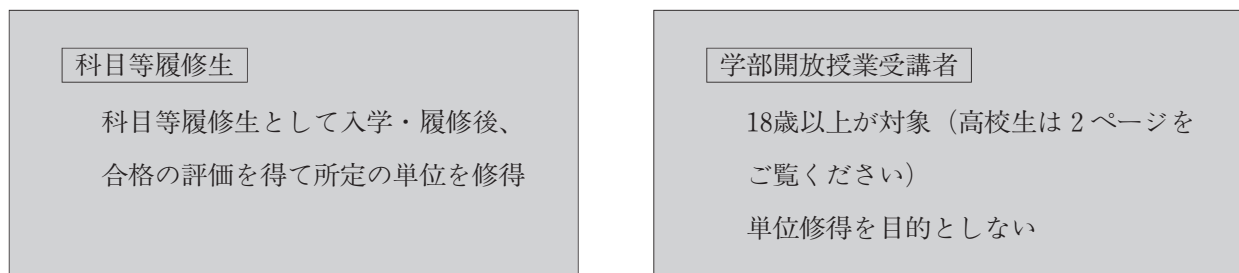
#### 【受講可能期間】

○初回聴講からの4年間で「登録期間」として以降の登録料を免除してきましたが、令和4年度前期より登録料を免除する制度を廃止します。

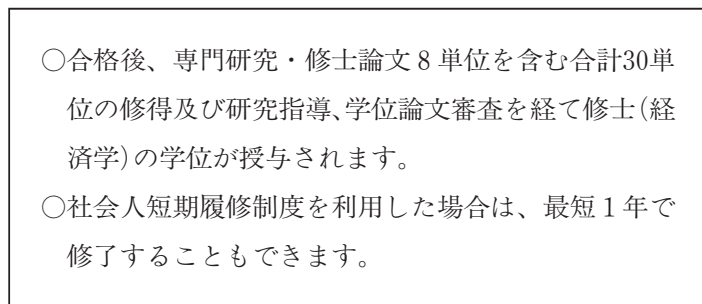
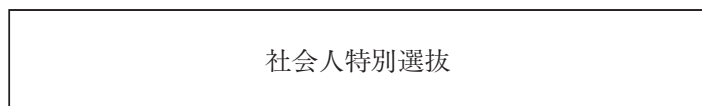
ただし経過措置として、令和3年12月31日時点において、登録期間の残期間がある開放授業生については、有効期限までは今までどおりとします。この場合、1科目あたりの受講料は10,000円となります。

### 3. 受講モデル

①自分のペースで、関心のある専門分野の知識や幅広い教養を身につけたい人



②さらに大学院経済学研究科修士課程に進み、修士(経済学)の学位取得をめざす人



#### ■大学院へのステップ

南紀熊野サテライトで大学院科目等履修生として単位を修得した受講生の中から、大学院修士課程に進学され、修士(経済学)の学位を取得された方がいらっしゃいます。



## II. 大学院科目等履修生の募集

### 1. 出願および履修願の手続き

#### 募集科目

科目名、授業内容、開講日時等については、16ページ以降をご参照ください。

※この募集要項に掲載のシラバスは後日変更となる可能性があります。正式なシラバスは和歌山大学のホームページから確認してください。

※令和4年度前期の授業は、対面授業を行いますが、以下の場合に遠隔授業(オンライン)に切り替えます。

- ・自治体に県域をまたぐ移動が自粛、規制されている場合、教員の出講を取消し遠隔対応にします。
- ・教員が新型コロナウイルスに罹患または濃厚接触者となり、自粛期間に授業が該当する場合は授業を延期して補講とします。

(オンライン授業に切り替わった際に必要な受信端末やネット環境は、各自で準備して下さい。)

(各授業では、授業内容を録画することがあります。)

#### 募集人数

各科目とも、若干名

#### 出願期間・出願方法

令和4年2月21日(月)～2月28日(月)(必着)

出願書類等を学務課学部支援室経済学部係宛に郵送してください。その際、封筒の表に「南紀熊野サテライト大学院科目等履修生出願書類在中」と朱書きし、「特定記録」で送付してください。

#### 【新規に出願される方】

##### ○入学資格

①大学を卒業した者

②学校教育法施行規則第155条の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

※入学資格について不明な点がある方は、検定料振込前に学務課学部支援室経済学部係にお問い合わせください。振込後の返金はいたしかねます。

※入学資格②による志願者は、事前に審査を行いますので、出願開始1ヵ月前までに経済学部係に申し出をしてください。

##### ○検定料

5,000円

##### ○出願書類

「南紀熊野サテライト大学院科目等履修生願書」(用紙⑦)

振込依頼書(用紙⑧)を利用して最寄りの銀行等にて検定料を振込み、振込依頼書のC票「振込金受付証明書」を願書の所定の位置に貼付してください。

「履歴書」(用紙④)

大学等の卒業(修了)証明書(卒業・修了見込の方は見込証明書)

証明書を卒業大学等から取り寄せ、履歴書に添付してください。

改姓・改名の場合は、戸籍抄本等それが分かる書類を添付してください。

返信用封筒(結果通知用)

角型2号封筒(100g以内)に出願者の郵便番号・住所・氏名を記入し、簡易書留で返送できるよう必要な額の切手を貼ってください。

※提出する書類は、すべて原本とし、コピーは認めません。

#### 【過去に科目等履修生であった方】

過去に科目等履修生であった方が出願される場合は、新規出願者の扱いとなります。上記の【新規に出願される方】と同様の手続きをお取りください。(注1)

### 【現在、科目等履修生である方】

令和3年度後期に登録した方は、令和5年度前期まで履修期間が有効です。

#### A. 履修可能期間中の方

##### ○出願書類

##### 「履修願」(用紙⑤)

「科目等履修生履修可能期限証(カード)」のコピーを所定の位置に貼付してください。

##### 返信用封筒(結果通知用)

角型2号封筒(100g以内)に出願者の郵便番号・住所・氏名を記入し、簡易書留で返送できるような必要な額の切手を貼ってください。

#### B. 有効期限が2022年3月31日の方

有効期限が2022年3月31日の方が出願される場合は、新規出願者の扱いとなります。上記の【新規に出願される方】と同様の手続きをお取りください。(注1)

注1：卒業(修了)証明書の原本は、過去に提出されている場合は、その証明書のコピーあるいは過去に発行された科目等履修生履修可能期限証(カード)のコピーでもかまいません。

### 選考および結果通知

提出された願書および履歴書等で審査を行います。選考結果は、3月15日(火)までに返信用封筒にて郵送します。届いていない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。合格者には入学手続書類を同封します。

### 入学手続期間・手続方法

令和4年3月16日(水)～3月17日(木)(必着)

手続書類を学務課学部支援室経済学部係まで郵送(期限必着)してください。詳細は入学手続書類に記載します。

### 入学料および授業料

入学料 10,000円

授業料 14,400円(1単位につき)

詳細は、入学手続書類に記載します。

※所定の期日までに授業料が納付されなかった場合は除籍となります。(入学手続後のキャンセルについては入学手続書類を確認してください。)

### その他

- ・出願後、授業科目の開講日時・場所・担当教員等に変更等が生じる場合がありますので留意してください。なお、これらの変更により受講が困難になった場合は、問い合わせ先までご相談ください。
- ・科目等履修生は通学定期の購入及び学割の利用はできません。
- ・障害を有する志願者で履修上特別な配慮を必要とする場合は、出願前に問い合わせ先までご相談ください。

### 出願先・問い合わせ先

| 窓 口                    | 住 所                    | 電話番号・電子メール                                    |
|------------------------|------------------------|---|
| 和歌山大学<br>学務課学部支援室経済学部係 | 〒640-8510<br>和歌山市栄谷930 | 073-457-7805<br>ecogakumu@ml.wakayama-u.ac.jp |

## 南紀熊野サテライト大学院科目等履修生願書

和歌山大学長 殿

氏名(署名) \_\_\_\_\_

下記の科目を科目等履修生として履修したいので、入学を許可願います。

記

### 履修希望科目

| 希望科目                     | 科目名      | 単位数 |
|--------------------------|----------|-----|
| <input type="checkbox"/> | 家族関係法    | 1   |
| <input type="checkbox"/> | 社会保障法    | 1   |
| <input type="checkbox"/> | マーケティング論 | 1   |

(: 該当するものに「レ」を記入してください。)

履修期間の開始 令和4年4月1日

|       |    |
|-------|----|
| 履修科目数 | 科目 |
|-------|----|

|        |    |
|--------|----|
| 履修総単位数 | 単位 |
|--------|----|

5,000円

新規科目等履修生  
振込金受付証明書  
貼り付け欄

付属の振込依頼書(用紙㊟)を利用し、最寄りの銀行等にて振込後、C票(振込依頼書の左端)をお貼りください。

振込後の返金はいたしかねます。

取扱金融機関の収納印のないものは無効です。



## 履 歴 書

|                       |                 |             |                   |
|-----------------------|-----------------|-------------|-------------------|
| ふりがな<br>氏 名           |                 | 男<br>・<br>女 | 写 真 欄<br>(3×4 cm) |
| 生年月日                  | 昭和<br>平成<br>(西暦 | 年           | 月                 |
|                       |                 | 日           | 生                 |
| 現住所                   | (〒 - )          |             |                   |
|                       | TEL.( ) -       |             |                   |
| 日中の連絡先<br>(勤務先・携帯電話等) | (〒 - )          |             |                   |
|                       | TEL.( ) -       |             |                   |
|                       | E-mail.         |             |                   |
| 最終学歴<br>卒業証明書添付要      |                 | 入 学         |                   |
|                       |                 |             | 年 月               |
|                       |                 | 卒 業         |                   |
|                       | ( 年制)           |             | 年 月               |
| 勤 務 先<br>(在職者のみ)      |                 |             | 年 月～              |

# 令和4年度前期検定料の納入について（南紀熊野サテライト大学院科目等履修生用）

① 出願資格について確認を必要とする方は、学務課学部支援室経済部係(073-457-7805)へ確認後振込むようにしてください。

(出願資格の欠格が多々見受けられますので、特に注意してください。)

② この振込依頼書に必要事項を記入のうえ、「電信扱」が利用できる金融機関窓口から振込んでください。

※ ゆうちょ銀行からは振込みできません。

※ A T M (現金自動預払機)、携帯電話、パソコン等からは振込まないでください。

※ 振込手数料は、依頼人負担となります。

③ 「振込金受付証明書(C票)」と「振込金領収書(B票)」は、金融機関の取納印があることを確認のうえ、受け取ってください。

④ 「振込金受付証明書(C票)」は、願書の所定欄に貼付してください。

⑤ 「振込金領収書(B票)」は本人の控えとして、大切に保管してください。

## 〈振込依頼書等記入要領〉

①  太線の枠内は必ず記入してください。

② 志願者氏名は、必ず志願者本人の「氏名、フリガナ」を記入してください。



切り取って、金融機関にお出しください。

### C票 振込金受付証明書

令和4年度前期入学検定料  
(願書所定欄貼付用)

|       |            |   |   |   |
|-------|------------|---|---|---|
| 依頼日   | 令和         | 年 | 月 | 日 |
| 金額    | 5,000      | 円 |   |   |
| 振込先銀行 | 紀陽銀行 紀の川支店 |   |   |   |
| 受取人   | 和歌山大学      |   |   |   |
| フリガナ  |            |   |   |   |
| 志願者氏名 |            |   |   |   |

取納印のない場合は、無効となります。

|     |
|-----|
| 取納印 |
|-----|

(ご依頼人→大学)

### B票 振込金領収書(本人保存)

令和4年度前期入学検定料

|       |            |   |   |   |
|-------|------------|---|---|---|
| 依頼日   | 令和         | 年 | 月 | 日 |
| 金額    | 5,000      | 円 |   |   |
| 振込先銀行 | 紀陽銀行 紀の川支店 |   |   |   |
| 普通預金  | 0766935    |   |   |   |
| 口座名   | 和歌山大学      |   |   |   |
| フリガナ  |            |   |   |   |
| 志願者氏名 |            |   |   |   |
| 振込手数料 | 円          |   |   |   |

|     |
|-----|
| 取納印 |
|-----|

(取扱店→ご依頼人)

### A票 振込依頼書

令和4年度前期入学検定料

|       |                |   |   |   |
|-------|----------------|---|---|---|
| 依頼日   | 令和             | 年 | 月 | 日 |
| 振込先銀行 | 紀陽銀行 紀の川支店 (普) |   |   |   |
| 口座名   | ワカヤマダイガク 和歌山大学 |   |   |   |
| 整理番号  | 5              | 6 | 1 |   |
| フリガナ  |                |   |   |   |
| 志願者氏名 |                |   |   |   |
| 住所    |                |   |   |   |
| 振込指定  | 0766935        |   |   |   |
| 金額    | 5,000          |   |   |   |
| 電信扱   | 円              |   |   |   |
| 手数料   | 円              |   |   |   |
| 依頼人   |                |   |   |   |
| ご依頼人  |                |   |   |   |

\* 金融機関へのお願い

1. 整理番号、志願者氏名(フリガナ)は必ず打電してください。
2. B票・C票は、押印のうえ、必ず依頼人へお返しください。

|     |
|-----|
| 取納印 |
|-----|

(取扱店保存)

## 履 修 願

和歌山大学長 殿

学 生 番 号 \_\_\_\_\_

氏 名 ( 署 名 ) \_\_\_\_\_

下記の科目を履修したいので、許可くださるようお願いいたします。

記

### 履修希望科目

| 希望科目                     | 科 目 名    | 単位数 |
|--------------------------|----------|-----|
| <input type="checkbox"/> | 家族関係法    | 1   |
| <input type="checkbox"/> | 社会保障法    | 1   |
| <input type="checkbox"/> | マーケティング論 | 1   |

( : 該当するものに「レ」を記入してください。)

※有効期限が2022年3月31日の方は、用紙㊦を使用してください。

有効期限 (西暦) 20 年 月 日

(科目等履修生履修可能期限証(カード)を参照ください。)

「科目等履修生履修可能期限証(カード)」  
のコピー貼付欄

### Ⅲ. 学部開放授業受講者の募集

#### 1. 聴講申請の手続き

##### 聴講資格

18歳以上(高校生は除く)であれば、どなたでも可能です。(受講申請に際しての審査や単位はありません。)

※高校生は2ページをご覧ください。

##### 募集科目および募集人数・会場

※この募集要項に掲載のシラバスは後日変更となる可能性があります。正式なシラバスは和歌山大学のホームページから確認してください。

※令和4年度前期の授業は、対面授業を行います。以下の場合に遠隔授業(オンライン)に切り替えます。

- ・自治体に県域をまたぐ移動が自粛、規制されている場合、教員の出講を取り止め、遠隔対応にします。
- ・教員が新型コロナウイルスに罹患または濃厚接触者となり、行動自粛期間に授業が該当する場合は、授業を延期して補講とします。

(オンライン授業に切り替わった際に必要な受信端末やネット環境は、各自で準備して下さい。)

※各授業では、授業内容を録画することがあります。

「経営人類学」

「コロナ後の世界と私たちの生活」

「癒しとメンタルヘルス」

(30名程度)……田辺市会場 <和歌山県立情報交流センターBig・u>

「地域づくりの理論と実践C」(通年科目) ※開講できない場合があります。

(15名程度)……田辺市会場 <秋津野ガルテン(田辺市上秋津4558-8)>

※「地域づくりの理論と実践C」の開講の有無は、2月中旬に決定される見通しです。決定されました時点で、正式にホームページ(南紀熊野サテライト <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/nanki-kumano/>)等において発表します。開講の有無を確認後、申請して下さい。

※お問い合わせは、会場ではなく次頁の和歌山大学南紀熊野サテライト迄お願いします。

##### 申請期間・方法

令和4年4月6日(水)～4月21日(木)(必着)

以下「必要となる書類等」を参考に、申請書類を和歌山大学南紀熊野サテライトオフィス宛に郵送してください。その際、封筒の表に「学部開放授業書類在中」と朱書きし、「特定記録」で送付してください。

※持参による申請は、4月21日(木)に限り、10時から17時まで受け付けます。

※必ず上記申請期間内に手続き(振込み等)してください。

(申請期間より前(4月6日より前)の申請(振込み等)は、正しく登録されないことがあります。)

(注)学部開放授業の開講日は、重複する日程がありますので、複数科目を受講される場合は、ご注意ください。

## 必要となる書類等

| 1. はじめて聴講申請される方<br>2. 登録の有効期限が2022年3月31日以前の方   | 2022年4月1日現在、登録有効期間中の方   |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
|--|---|---|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--|------|---|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|
| <input type="checkbox"/> 学部開放授業受講者聴講申請書<br>(用紙㊸)<br><br><input type="checkbox"/> <table border="0"> <tr> <td>・聴講料</td> <td> <table border="0"> <tr><td>11,000円</td><td>(1科目の場合)</td></tr> <tr><td>22,000円</td><td>(2科目の場合)</td></tr> <tr><td>33,000円</td><td>(3科目の場合)</td></tr> <tr><td>44,000円</td><td>(4科目の場合)</td></tr> </table> </td> </tr> </table> <p>→最寄りの銀行等にて振込依頼書(用紙㊹)により合計額を振込んだうえ、「C票振込金受付証明書」を用紙㊸の所定の位置に貼付してください。</p> | ・聴講料  | <table border="0"> <tr><td>11,000円</td><td>(1科目の場合)</td></tr> <tr><td>22,000円</td><td>(2科目の場合)</td></tr> <tr><td>33,000円</td><td>(3科目の場合)</td></tr> <tr><td>44,000円</td><td>(4科目の場合)</td></tr> </table> | 11,000円  | (1科目の場合) | 22,000円  | (2科目の場合) | 33,000円  | (3科目の場合) | 44,000円  | (4科目の場合) | <input type="checkbox"/> 学部開放授業聴講申請書<開放授業登録済者用><br>(用紙㊹)<br><br><input type="checkbox"/> <table border="0"> <tr> <td>・聴講料</td> <td> <table border="0"> <tr><td>10,000円</td><td>(1科目の場合)</td></tr> <tr><td>20,000円</td><td>(2科目の場合)</td></tr> <tr><td>30,000円</td><td>(3科目の場合)</td></tr> <tr><td>40,000円</td><td>(4科目の場合)</td></tr> </table> </td> </tr> </table> <p>→最寄りの銀行等にて振込依頼書(用紙㊹)により合計額を振込んだうえ、「C票振込金受付証明書」を用紙㊹の所定の位置に貼付してください。</p> | ・聴講料 | <table border="0"> <tr><td>10,000円</td><td>(1科目の場合)</td></tr> <tr><td>20,000円</td><td>(2科目の場合)</td></tr> <tr><td>30,000円</td><td>(3科目の場合)</td></tr> <tr><td>40,000円</td><td>(4科目の場合)</td></tr> </table> | 10,000円 | (1科目の場合) | 20,000円 | (2科目の場合) | 30,000円 | (3科目の場合) | 40,000円 | (4科目の場合) |
| ・聴講料   | <table border="0"> <tr><td>11,000円</td><td>(1科目の場合)</td></tr> <tr><td>22,000円</td><td>(2科目の場合)</td></tr> <tr><td>33,000円</td><td>(3科目の場合)</td></tr> <tr><td>44,000円</td><td>(4科目の場合)</td></tr> </table> | 11,000円   | (1科目の場合) | 22,000円  | (2科目の場合) | 33,000円  | (3科目の場合) | 44,000円  | (4科目の場合) |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 11,000円  | (1科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 22,000円  | (2科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 33,000円  | (3科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 44,000円  | (4科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| ・聴講料   | <table border="0"> <tr><td>10,000円</td><td>(1科目の場合)</td></tr> <tr><td>20,000円</td><td>(2科目の場合)</td></tr> <tr><td>30,000円</td><td>(3科目の場合)</td></tr> <tr><td>40,000円</td><td>(4科目の場合)</td></tr> </table> | 10,000円   | (1科目の場合) | 20,000円  | (2科目の場合) | 30,000円  | (3科目の場合) | 40,000円  | (4科目の場合) |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 10,000円  | (1科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 20,000円  | (2科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 30,000円  | (3科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| 40,000円  | (4科目の場合)  |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |
| <input type="checkbox"/> 申請書類受付通知はがき㊺<br>郵便番号、住所、氏名を記入し郵送分の切手を貼付して、申請書類とともに必ず同封してください。切手のないものは送付しません。<br>※持参による申請の場合は、はがきは不要です。  | <input type="checkbox"/> 申請書類受付通知はがき㊺<br>郵便番号、住所、氏名を記入し郵送分の切手を貼付して、申請書類とともに必ず同封してください。切手のないものは送付しません。<br>※持参による申請の場合は、はがきは不要です。   |   |          |          |          |          |          |          |          |          |  |      |   |         |          |         |          |         |          |         |          |

[参考] 聴講料…授業料にかかわるものです。1科目につき11,000円です。登録有効期間中の方は1科目につき10,000円です

※受講登録後の払戻しはできません。

高校生を対象とした大学授業の公開制度(P.2)による高校生の受講料は別途設定されております。

和歌山大学ホームページよりご確認ください。

※改定があった場合は、改定後の金額とします。

## 申請書類受付通知

申請書類受理後、お送りいただきました受付通知はがきを送付します。募集期間終了日(4月21日)から3～4日過ぎても受理通知はがきが届かない場合は、下記窓口へお問い合わせください。

## 受講通知

授業開始日の10日前頃までに、授業案内(教室等お知らせ)を送付します。

## 登録および申請先・問い合わせ先

| 窓 口                | 住 所  | 電話番号・電子メール   |
|--------------------|--|--|
| 和歌山大学<br>南紀熊野サテライト | 〒646-0011<br>田辺市新庄町3353-9-102<br>和歌山県立情報交流センターBig・u内 | 0739-23-3977 (fax 0739-23-3978)<br>nankuma@ml.wakayama-u.ac.jp |

※開室時間 10:00～17:00 (日曜・月曜・祝日休み)

### 学部開放授業受講者聴講申請書

和歌山大学長 殿

写真欄  
(3 × 4 cm)

最近3ヶ月以内に  
撮影の上半身正面  
脱帽とする

#### 申請者

フリガナ  
氏名(署名) \_\_\_\_\_

生年月日(西暦) \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日(男・女)

現住所(〒 \_\_\_\_\_ )  
\_\_\_\_\_

電話番号( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_ 職業 \_\_\_\_\_

携帯電話番号 \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

#### 保護者(※申請者が未成年の場合に必要な)

氏名(署名) \_\_\_\_\_

申請者との続柄( \_\_\_\_\_ )

※氏名の漢字は、本学の「教育サポートシステム」に登録できる漢字以外については代替の文字(カタカナを含む)となります。

下記の開放授業の聴講を希望しますので、開放授業受講者の登録及び聴講を申請します。

記

| 希望科目                     | 聴講希望科目名        |
|--------------------------|----------------|
| <input type="checkbox"/> | 経営人類学          |
| <input type="checkbox"/> | コロナ後の世界と私たちの生活 |
| <input type="checkbox"/> | 癒しとメンタルヘルス     |
| <input type="checkbox"/> | 地域づくりの理論と実践C   |

※開講日が重複する日程がありますので、複数科目を受講される場合はご注意ください。

※「地域づくりの理論と実践C」は開講できない場合があります。ホームページ等で開講の有無を確認後、申込みを行うようご注意ください。

以下、大学記入欄

学生番号: \_\_\_\_\_

発行年月日: \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

有効期限: \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

1科目 11,000円  
 2科目 22,000円  
 3科目 33,000円  
 4科目 44,000円

新規聴講者  
振込金受付証明書  
貼り付け欄

付属の振込依頼書(用紙㊸)を利用し、最寄りの銀行等にて振込後、C票(振込依頼書の左端)をお貼りください。

振込後の返金はいたしかねます。

取扱金融機関の収納印のないものは無効です。

※ATM又はネットバンキングで振込まれた方は、下の□に✓を記入して下さい。

- ATMにて振込
- ネットバンキングにて振込

## 学部開放授業聴講申請書 〈開放授業登録済者用〉

和歌山大学長 殿

### 申請者

学生番号 \_\_\_\_\_

氏名(署名) \_\_\_\_\_

生年月日(西暦) 19 年 月 日 (男・女)

現住所(〒 - ) \_\_\_\_\_

電話番号( ) - 職業 \_\_\_\_\_

携帯電話番号 - \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

### 保護者 (※申請者が未成年の場合に必要)

氏名(署名) \_\_\_\_\_

申請者との続柄 ( )

下記の開放授業の聴講を希望しますので、申請します。

### 記

| 希望科目                     | 聴講希望科目名        |
|--------------------------|----------------|
| <input type="checkbox"/> | 経営人類学          |
| <input type="checkbox"/> | コロナ後の世界と私たちの生活 |
| <input type="checkbox"/> | 癒しとメンタルヘルス     |
| <input type="checkbox"/> | 地域づくりの理論と実践C   |

※開講日が重複する日程がありますので、複数科目を受講される場合はご注意ください。

※「地域づくりの理論と実践C」は開講できない場合があります。ホームページ等で開講の有無を確認後、申込みを行うようご注意ください。

有効期限(西暦) 20 年 月 日

(学部開放授業登録者証を参照ください。)

「学部開放授業登録者証」のコピー貼付欄

1科目 10,000円  
 2科目 20,000円  
 3科目 30,000円  
 4科目 40,000円

登録期間中の聴講者  
 振込金受付証明書  
 貼り付け欄

付属の振込依頼書(用紙㊦)を利用し、最寄りの銀行等にて振込後、C票(振込依頼書の左端)をお貼りください。

振込後の返金はいたしかねます。

取扱金融機関の収納印のないものは無効です。

※ATM又はネットバンキングで振込まれた方は、下の□に✓を記入して下さい。

ATMにて振込

ネットバンキングにて振込

# 令和4年度前期学部開放授業の聴講料の納入について（南紀熊野サテライト用）

費用は、新規受講申請者(用紙②)での申請は聴講料11,000円(1科目につき)の計11,000円(2科目の場合は計22,000円)となります。  
更新受講申請者(用紙③)での申請は聴講料10,000円(1科目につき)の計10,000円(2科目の場合は計20,000円)となります。

①この振込依頼書に必要な事項を記入のうえ、「電信扱」が利用できる金融機関の窓口から振込んでください。

※ゆうちょ銀行からは振込みできません。

※ATM(現金自動預払機)・ネットバンキングでも振込み可能ですが、その際は下記の振込依頼書に記載の銀行口座に、振込依頼人欄には整理番号「69」と氏名を記入の上(例 69 ワダイ タロウ)、金額に過不足のないようお振込みください。

※振込手数料は、依頼人負担となります。

②「振込金受付証明書(C票)」は、申請書の所定欄に貼付してください。

③「振込金領収書(B票)」は本人の控えとして、大切に保管してください。

## 〈振込依頼書等記入要領〉

- ①  太線の枠内は必ず記入してください。
- ② A票・B票・C票の金額欄は、聴講料の合計を記入してください。
- ③ 受講者氏名は、必ず受講生本人の「氏名、フリガナ」を記入してください。

④

## C票 振込金受付証明書

令和4年度前期聴講料  
(申請書所定欄貼付用)

|       |               |   |   |   |
|-------|---------------|---|---|---|
| 依頼日   | 令和            | 年 | 月 | 日 |
| 金額    | 円             |   |   |   |
| 振込先銀行 | 紀陽銀行<br>紀の川支店 |   |   |   |
| 受取人   | 和歌山大学         |   |   |   |
| フリガナ  |               |   |   |   |
| 受講者氏名 |               |   |   |   |

収納印のない場合は、無効となります。

|             |
|-------------|
| 収<br>納<br>印 |
|-------------|

(ご依頼人→大学)

## B票 振込金領収書(本人保存)

令和4年度前期聴講料

|       |           |         |   |   |
|-------|-----------|---------|---|---|
| 依頼日   | 令和        | 年       | 月 | 日 |
| 金額    | 円         |         |   |   |
| 振込先銀行 | 紀陽銀行紀の川支店 |         |   |   |
| 受取人   | 普通預金      | 0766935 |   |   |
| フリガナ  | 和歌山大学     |         |   |   |
| 受講者氏名 |           |         |   |   |
| 振込手数料 |           |         |   |   |
| 円     |           |         |   |   |

|             |
|-------------|
| 収<br>納<br>印 |
|-------------|

(取扱店→ご依頼人)

切り取って、金融機関にお出しください。

## A票 振込依頼書

令和4年度前期聴講料

|       |                   |       |     |         |
|-------|-------------------|-------|-----|---------|
| 依頼日   | 令和                | 年     | 月   | 日       |
| 振込先銀行 | 紀陽銀行              | 紀の川支店 | (普) | 0766935 |
| 口座名   | ワカヤマダイガク<br>和歌山大学 |       |     |         |
| 整理番号  | 69                |       |     |         |
| フリガナ  |                   |       |     |         |
| 受講者氏名 |                   |       |     |         |
| 住所    |                   |       |     |         |

|             |
|-------------|
| 収<br>納<br>印 |
|-------------|

(取扱店保存)

\*金融機関へお願い

- 1. 整理番号、受講生氏名(フリガナ)は必ず打電してください。
- 2. B票・C票は、押印のうえ、必ず依頼人へお返しください。

金融機関で切り離してください。

電信扱

手数料ご依頼人負担



## IV. 令和4年度前期 南紀熊野サテライト開講授業

### 1. 大学院授業科目

|  |                        |      |       |
|--|------------------------|------|-------|
| 授業科目名<br>(英文表記)  | 家族関係法<br>(Family Law)  |      |       |
| 単位数  | 1                      | 授業形態 | 講義・演習 |
| 担当教員   | 吉田 雅章                  |      |       |
| 開講   | 南紀熊野サテライト              | 区分   | 大学院   |
| 実施日・時間   | 第1回 5月7日(土) 9:30~14:30 |      |       |
|  | 第2回 6月4日(土) 9:30~14:30 |      |       |
|  | 第3回 8月6日(土) 9:30~14:30 |      |       |
| <b>【授業のねらい・概要】</b>   |                        |      |       |
| <p>本講義では、民法第4編親族の離婚と第5編相続の遺産分割契約を中心に、近年の学説と判例について検討する予定です。①結婚(内縁関係を含む)と離婚に関するトラブル、②遺言が存在しない法定相続における種々のトラブル、③公正証書遺言や自筆証書遺言が存在する場合のトラブルを重点項目として、民法(家族法)の法的思考方法を修得してもらうことが狙いです。最近の最高裁判決の判例分析や民法学界の動向を踏まえ、もし可能ならば法的実務を扱ったDVD教材を使用することも検討したいです。(以上は、あくまでも建前で、初回に受講生の皆さんと十分に話し合っ、有意義な講義になるように工夫したいです。使用するDVD教材としては天海祐希・主演のテレビドラマ「離婚弁護士」が、法律事務所を舞台にして、家族法に関連する諸問題を取り扱って視聴者に理解しやすく、我々の生活に不可欠な法律、とりわけ民法の親族・相続に言及しているように思われます。このドラマやその他のテレビドラマ・映画(山崎豊子原作の「女系家族」)などをたたき台として受講生の皆さんに家族法を考えてもらえたら幸いです。)</p> |                        |      |       |
| <b>【授業計画】</b>  |                        |      |       |
| <b>第1回 オリエンテーションおよび民法(親族・相続)に関連する内容</b>  |                        |      |       |
| <p>上述しましたように、受講生のみなさんと十分に話し合っ、再構成する予定ですが、一応の計画として、民法第4編親族と第5編相続に関連する内容を取り上げます。具体的には、結婚・離婚・内縁関係、法定相続と遺言、遺産分割などを考えています。受講生の皆さんの賛同を得られれば上記ドラマの該当回を視聴し、質疑応答したいです。</p>  |                        |      |       |
| <b>第2回 親族法に関連する内容</b>  |                        |      |       |
| <p>第1回での話し合いに従って再検討する予定ですが、離婚を中心に、子供の親権者は誰か、養育費と面会交流、慰謝料と財産分与、有責配偶者からの離婚請求などを詳細に取り上げるつもりです。</p>  |                        |      |       |
| <b>第3回 相続法に関連する内容</b>  |                        |      |       |
| <p>第2回同様、第1回での話し合いに従って再検討する予定ですが、法定相続と遺言、相続人の範囲、相続欠格と相続の廃除、公正証書遺言と自筆証書遺言、遺産分割協議をめぐる種々の紛糾などを詳細に取り上げるつもりです。</p>  |                        |      |       |
| <b>【到達目標】</b>  |                        |      |       |
| <p>民法、とりわけ家族に関して十分に理解し、現代家族生活における重要な法的論点に関して学説や判例の分析ができるようになることを目標とします。</p>  |                        |      |       |
| <b>【成績評価の方法】</b>   |                        |      |       |
| <p>毎回の質疑応答や作成してきたレジュメを総合評価します。</p>   |                        |      |       |
| <b>【教科書】</b>   |                        |      |       |
| <p>特に指定しません。プリントを配布します。</p>  |                        |      |       |
| <b>【参考書・参考文献】</b>  |                        |      |       |
| <p>授業中に適宜紹介します。</p>  |                        |      |       |
| <b>【履修上の注意・メッセージ】</b>  |                        |      |       |
| <p>できる限り毎回出席して下さい。</p>   |                        |      |       |
| <b>【履修をする上で必要な事項】</b>  |                        |      |       |
| <p>家族法に関連する現代の社会問題に関するニュースや新聞報道に注意を払って下さい。</p>   |                        |      |       |
| <b>【授業時間外学修についての指示】</b>  |                        |      |       |
| <p>事前学習と復習に相当な時間、さらに授業内容に関連する課題についての調査・考察に相当な時間、事前に配布するプリントの精読を中心として自主的に学習することが必要です。また、裁判の傍聴や裁判所が開催するイベントへの参加(コロナ禍においては困難なのですが)は非常に有益であると思います。</p>   |                        |      |       |
| <p>※基本的には対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。</p>   |                        |      |       |

|  |                                |      |       |
|--|--------------------------------|------|-------|
| 授業科目名<br>(英文表記)  | 社会保障法<br>(Social Security Law) |      |       |
| 単位数  | 1                              | 授業形態 | 講義・演習 |
| 担当教員   | 金川 めぐみ                         |      |       |
| 開講   | 南紀熊野サテライト                      | 区分   | 大学院   |
| 実施日・時間   | 第1回 5月14日(土) 13:00~17:00       |      |       |
|  | 第2回 6月11日(土) 13:00~17:00       |      |       |
|  | 第3回 8月20日(土) 13:00~17:00       |      |       |
| <b>【授業のねらい・概要】</b>   |                                |      |       |
| <p>本格的な少子高齢社会の到来・経済のグローバル化・家族形態の多様化などを背景として、日本の社会福祉制度はいま大きな転換期にさしかかっています。医療・年金保険制度についても、この数年で相次ぐ法改正が行われ、そのあり方が問われようとしています。そのような社会保障の制度について、人権保障の観点からその原理を考察・検討していきます。</p> <p>履修者は、授業を通してDP1①、DP2②、DP3①、DP4①を満たすことを目的とします。</p>  |                                |      |       |
| <b>【授業計画】</b>  |                                |      |       |
| <p><b>第1回①</b> ・ガイダンス、科目のカリキュラム上の位置づけの説明・授業方法の説明・成績評価方法の説明など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉政策と人権」第1章の内容を考える</li> <li>[予習] 教科書第1章を一読しておくこと。</li> <li>[復習] 第1回①の講義で学んだことを確認しておくこと。</li> </ul> <p><b>第1回②</b> ・「福祉政策と人権」第2章、および第15章の内容を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[予習] 教科書第2章・第15章を一読しておくこと。</li> <li>[復習] 第1回②の講義で学んだことを確認しておくこと。</li> </ul> <p><b>第2回①</b> 前回の復習</p> <p>各担当者の発表：「福祉政策と人権」第3章～第7章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[予習] 各担当者の発表範囲の章を一読しておくこと。担当者は発表準備を行うこと。</li> <li>[復習] 第2回①の講義で学んだことを確認しておくこと。</li> </ul> <p><b>第2回②</b> 各担当者の発表：「福祉政策と人権」第8章～第14章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[予習] 各担当者の発表範囲の章を一読しておくこと。担当者は発表準備を行うこと。</li> <li>[復習] 第2回②の講義で学んだことを確認しておくこと。</li> </ul> <p><b>第3回①</b> 前回の復習</p> <p>履修生が考える「福祉政策と人権」の内容報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[予習] 各担当者は、自らの視点で「福祉政策と人権」のテーマで考察を行ったうえ、発表準備を行うこと。</li> <li>[復習] 第3回①の講義で学んだことを確認しておくこと。</li> </ul> <p><b>第3回②</b> 履修生が考える「福祉政策と人権」の内容報告</p> <p>まとめ、レポート指示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[予習] 各担当者は、自らの視点で「福祉政策と人権」のテーマで考察を行ったうえ、発表準備を行うこと。</li> <li>[復習] 第3回②の講義で学んだことを確認しておくこと。レポートを作成すること。</li> </ul> |                                |      |       |
| <b>【到達目標】</b>  |                                |      |       |
| 講義で紹介される内容の基礎的な部分を把握し、自らで論理的にその内容を説明しコメントを加えることができるのが、合格への最低ラインです。   |                                |      |       |
| <b>【成績評価の方法】</b>   |                                |      |       |
| 授業に入る前の学修(10%)、授業での議論(40%)、レポート(50%)   |                                |      |       |
| <b>【教科書】</b>   |                                |      |       |
| 金川めぐみ [2022] 「福祉政策と人権」放送大学教育振興会、3,100円(税別)   |                                |      |       |
| <b>【参考書・参考文献】</b>  |                                |      |       |
| 講義中に適宜紹介します。   |                                |      |       |
| <b>【履修上の注意・メッセージ】</b>  |                                |      |       |
| この授業は、その構成において議論を行う時間を予定しています。積極的な質疑応答を望みます。   |                                |      |       |
| <b>【履修をする上で必要な事項示】</b>   |                                |      |       |
| 南紀熊野サテライトでは対面で、それ以外の地域から参加する場合には同時配信で授業を行います。同時配信を受信する方法として、パソコンとTeamsさらにZoomのアプリをダウンロードしておいてください。さらに質疑応答する場合に、ハウリングが生じないようにイヤホンをご準備ください。  |                                |      |       |
| <b>【授業時間外学修についての指示】</b>  |                                |      |       |
| まずは教科書を読み込んでください。授業終了後には議論から得た知見や刺激に基づき感想または各人の調査結果をまとめてもらいます。授業の最後には授業全体を振り返り、レポートを作成してもらいます。これらへの対応のために相当程度の時間が必要です。   |                                |      |       |
| ※基本的には対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。  |                                |      |       |

|  |                          |      |       |
|--|--------------------------|------|-------|
| 授業科目名<br>(英文表記)  | マーケティング論<br>(Marketing)  |      |       |
| 単位数  | 1                        | 授業形態 | 講義・演習 |
| 担当教員   | 柳 到亨                     |      |       |
| 開 講  | 南紀熊野サテライト                | 区 分  | 大学院   |
| 実施日・時間   | 第1回 6月18日(土) 13:00~14:20 |      |       |
|  | 第2回 7月9日(土) 13:00~17:00  |      |       |
|  | 第3回 7月16日(土) 13:00~17:00 |      |       |
|  | 第4回 7月23日(土) 13:00~15:40 |      |       |
| <b>【授業のねらい・概要】</b>   |                          |      |       |
| この授業の目標は、基礎的なマーケティング理論と概念を理解し、マーケティング事例分析ができるようになることです。この授業は、マネジリアル・マーケティングの理論枠組みに沿って、マーケティングとは、どのような活動であり、そのマネジメントはどのような枠組みで説明できるかを解説します。 |                          |      |       |
| <b>【授業計画】</b>  |                          |      |       |
| 第1回 ガイダンス 受講生自己紹介 今後の発表計画  |                          |      |       |
| 第2回 ①マーケティングとは何か、②マーケティング・マネジメントの基本枠組み<br>ケース1. ヘルシア緑茶 ケース2. ファブリーズ  |                          |      |       |
| 第3回 ①製品・サービスのデザイン、②価格のデザイン<br>ケース3. ユニクロ ケース4. マクドナルドVSモスバーガー  |                          |      |       |
| 第4回 ①流通チャネルのデザイン、②プロモーションのデザイン<br>ケース5. エア・ジョーダン ケース6. ハイチオールC   |                          |      |       |
| <b>【到達目標】</b>  |                          |      |       |
| 現大企業のマーケティング問題を理論的かつ実践的に分析できる。   |                          |      |       |
| <b>【成績評価の方法】</b>   |                          |      |       |
| テキスト(『ゼミナール・マーケティング入門』)の発表およびレポート(40点)   |                          |      |       |
| ケース課題(『売れる仕掛けはこうしてつくる』)の発表およびレポート(40点)   |                          |      |       |
| 授業への参加度(20点)   |                          |      |       |
| <b>【教科書】</b>   |                          |      |       |
| テキスト=『ゼミナール・マーケティング入門』を使用し、ケースとしては、『売れる仕掛けはこうしてつくる』を使用します。   |                          |      |       |
| 石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎(2013)『ゼミナールマーケティング入門第2版』日本経済新聞出版社。  |                          |      |       |
| 栗木契・余田拓郎・清水信年(2006)『売れる仕掛けはこうしてつくる』日本経済新聞出版社。  |                          |      |       |
| <b>【参考書・参考文献】</b>  |                          |      |       |
| 授業中に適宜紹介します。   |                          |      |       |
| <b>【履修上の注意・メッセージ】</b>  |                          |      |       |
| ○毎回テキストを予習して受講することが望ましい。   |                          |      |       |
| ○講義の中で、参考文献を紹介するので、積極的な自習を期待する。  |                          |      |       |
| <b>【履修をする上で必要な事項】</b>  |                          |      |       |
| 特になし。  |                          |      |       |
| <b>【授業時間外学修についての指示】</b>  |                          |      |       |
| ○翌週の授業でとりあげるテキスト章、およびレポート課題を確認し、予習を欠かさないようにしてください。   |                          |      |       |
| ○発表者は、テキストおよびケース課題を、パワーポイントでプレゼンテーションをしてください。  |                          |      |       |
| ○毎週、授業の予習・復習内容、ケース課題をA4用紙1枚にまとめて提出してください。  |                          |      |       |
| ○授業スケジュールは変更されることがあります。授業時に新たな指示がある場合は、そちらを優先してください。   |                          |      |       |
| ※基本的には対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要パソコン、ネット環境は、各自で準備してください。                     |                          |      |       |

## 2. 学部授業科目

|  |  |      |                               |
|--|--|------|-------------------------------|
| 授業科目名<br>(英文表記)  | 経営人類学<br>(Anthropology of Business Administration) |      |                               |
| 単位数  | 2 (学部生のみ)  | 授業形態 | 講義                            |
| 担当教員   | 出口 竜也  |      |                               |
| 開講   | 南紀熊野サテライト  | 区分   | 学部開放科目                        |
| 実施日・時間   | ① 5月7日(土) 13:00~17:00                              | 観光学部 | 出口竜也 (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏)       |
|  | ② 5月21日(土) 13:00~17:00                             | 観光学部 | 出口竜也 (ゲスト 岩井 洋氏、市川文彦氏)        |
|  | ③ 6月18日(土) 13:00~17:00                             | 観光学部 | 出口竜也 (ゲスト 三井 泉氏、竹内恵行氏)        |
|  | ④ 6月25日(土) 13:00~17:00                             | 観光学部 | 出口竜也 (ゲスト 八巻恵子氏、河野憲嗣氏)        |
|  | ⑤ 7月9日(土) 13:00~17:00                              | 観光学部 | 出口竜也 (ゲスト 奥野明子氏、マリア・ヨトヴァ氏)    |
|  | ⑥ 7月23日(土) 13:00~17:00                             | 観光学部 | 出口竜也 (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏、住原則也氏) |
| <b>【授業のねらい・概要】</b>   |  |      |                               |
| <p>「経営人類学」とは、「会社」や「経営」の問題を人類学的アプローチで明らかにしようとする学問領域です。日本では、1993年に大阪の国立民族学博物館において組織された共同研究会が契機となって研究が進んでいます。そこでは、それぞれの「会社」が独自に保有する理念・価値観、あるいはそこで働く人々の仕事ぶりや生活パターンなどが主として文化的側面から比較・検討され、その普遍性と個性がさまざまな学問分野の研究者によって検討されてきました。そして、こうした学際的な共同研究が構想されたきっかけは実は和歌山にあります。この授業では、この新しい学問領域が日本において誕生したエピソードや、そこで議論されたさまざまなテーマについて、共同研究会に参加したメンバーの方々を順次ゲスト講師としてお招きし、お話しいただくとともに、受講生の皆さんと活発な意見交換も行いたいと考えています。</p> |  |      |                               |
| <b>【授業計画】</b> ※記載の内容、および授業の順序は変更になることもあります。  |  |      |                               |
| <p><b>第1回 経営人類学とは何か</b> (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏)<br/>日本における経営人類学誕生のエピソードや、国立民族学博物館における共同研究会の継続的開催によってどのような研究テーマが取り扱われてきたのかを通じて、この学問領域の全体像について解説していきます。</p>   |  |      |                               |
| <p><b>第2回 会社とは何か</b> (ゲスト 岩井 洋氏、市川文彦氏)<br/>会社とは何かを利己と利他、公共性、宗教性、共同性、永続性、そして事業承継などの観点から経営人類学的に明らかにしていきます。</p>   |  |      |                               |
| <p><b>第3回 会社の諸相</b> (ゲスト 三井 泉氏、竹内恵行氏)<br/>組織としての会社が持つ多様な側面について検討していきます。前半ではヒトの側面を取り上げます。ヒトはなぜ組織をつくるのか、ヒトの「やる気」や組織の「パワー」はどこから生じるのか、「掟」や「ルール」がどのように形成されて人々を無意識のうちに縛るのかなどについて考えていきます。後半では、会社が対外的・対内的に行う自己演出のありようについて、各種協賛事業や企業博物館を通じて明らかにしていきます。なぜ会社は地域の祭りに人や金を出して参加するのか、なぜ会社が博物館や美術館を持つのかなどを論点にして会社の個性を検討していきます。</p>   |  |      |                               |
| <p><b>第4回 実務家教員から見た経営人類学の意味と意義</b> (ゲスト 八巻恵子氏、河野憲嗣氏)<br/>元CA(八巻氏)および元銀行員(河野氏)のキャリアを持つ実務家教員から見た経営人類学の意味や意義について、ご自身の実務経験等を踏まえて解説していきます。</p>  |  |      |                               |
| <p><b>第5回 多文化とジェンダー</b> (ゲスト 奥野明子氏、マリア・ヨトヴァ氏)<br/>グローバル時代の会社経営や雇用について、多文化とジェンダーの観点から経営人類学的に明らかにしていきます。</p>   |  |      |                               |
| <p><b>第6回 まとめ ～経営人類学のこれから～</b> (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏、住原則也氏)<br/>これからの会社社会のゆくえについて経営人類学的観点から考察し、受講生との間で意見交換を行っていきます。</p>  |  |      |                               |
| <b>【到達目標】</b>  |  |      |                               |
| <p>文化人類学、社会学、宗教学、経営学、経済学など多様な枠組みによる見方の違いを学ぶとともに、「会社」や「経営」にかかわる問題を学際的に研究する特徴(利点・欠点)を理解する。</p>   |  |      |                               |
| <b>【教科書】</b>   |  |      |                               |
| <p>中牧弘允・日置弘一郎・竹内恵行編(2019)「テキスト経営人類学」東方出版 ISBN-10: 4862493661 2,200円</p>  |  |      |                               |
| <b>【参考書】</b>   |  |      |                               |
| <p>授業を通じて数冊紹介する予定です。</p>   |  |      |                               |
| <b>【授業時間外学習】</b>   |  |      |                               |
| <p>あらかじめテキストの指定された箇所を読み込むとともに、毎回の課題をしっかりとこなしてください。</p>   |  |      |                               |
| <b>【履修上の注意・メッセージ】</b>  |  |      |                               |
| <p>基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自で教科書等を読んで理解を深めるようにしてください。講義は1回完結です。</p>  |  |      |                               |

|                 |  |                        |        |
|-----------------|--|------------------------|--------|
| 授業科目名<br>(英文表記) | コロナ後の世界と私たちの生活<br>(Life in a post-coronavirus world) |                        |        |
| 単位数             | 2 (学部生のみ)  | 授業形態                   | 講義     |
| 担当教員            | 金川めぐみ、厨子 直之、豊田 充崇、藤永 博、鈴木 裕範 (非常勤講師)                 |                        |        |
| 開講              | 南紀熊野サテライト  | 区分                     | 学部開放科目 |
| 実施日・時間          | ① 5月14日(土) 13:00~17:00                               | ④ 7月23日(土) 13:00~17:00 |        |
|                 | ② 6月18日(土) 13:00~17:00                               | ⑤ 8月13日(土) 13:00~17:00 |        |
|                 | ③ 7月16日(土) 13:00~17:00                               | ⑥ 8月27日(土) 13:00~17:00 |        |

#### 【授業の概要・ねらい】

本授業では、新型コロナウイルスのパンデミックが引き起こした影響を検証し、混沌の時代を生きていく社会のあり方や個人の暮らしを、三つのテーマで考察することを目的とします。ひとつは、新型コロナが福祉や雇用にどのような問題を引き起こしているのかを検証しながら、コロナ後の世界に対応できる心理的安全性の高いひとづくりと地域づくりをいかに進めるのかです。二つ目は新型コロナという経験したことのない大事件のもとで、判断を間違えないための情報の読み方です。コロナから学ぶ大災害への備えと知恵を探ります。歴史的な事件に直面したとき、国民に「正確な情報」を伝えるのは、SNSではなくジャーナリズムの仕事です。コロナ下で日本のジャーナリズムは地域の期待に十分応えたか、このことはあすの暮らしのために改めて考察すべき問題です。そして情報を扱う際の情報(メディア)リテラシーや教育分野にも急速に導入が進みつつあるICTの活用に関しても正しい知識が必要となっています。このようなことを基に、情報の受け止めと活用についても考えます。三つ目は、人と人のつながり、ヒトとウイルスの関係、人間を含めた生態系(環境)などについてふりかえり、心身をいかに健康に保っていくかです。レジリエンスをキーワードに、これらの点を考えていきます。

#### 【授業計画】

##### 第1回「レジリエンス～逆境に耐えるしなやかな心」 経済学部：藤永 博

様々なストレスや逆境に耐え、それらをしなやかに乗り越えていく力は、近年「レジリエンス(逆境力、精神的回復力など)」と呼ばれ、注目を集めています。第1回の授業では、「レジリエンス」を自ら鍛えるうえで役に立つ基本的な考え方やスキルについて学びます。

##### 第2回「コロナ後の福祉・労働政策」 経済学部：金川めぐみ

コロナ禍は、和歌山県の地域経済にも深刻な影響を与えており、企業等の活動の停滞は多くの生活困窮者を生み出し、とくに一人親家庭や非正規雇用者などの暮らしを直撃しています。コロナ前後の福祉・労働政策の現状と課題を家族や地域との関係から明らかにし、これからの展望をします。

##### 第3回「コロナ後と問われるコミュニティ力」 非常勤講師：鈴木 裕範

コロナそして変異株ウイルスは、日本社会に潜む差別、偏見、分断、日本人の本性を顕在化させました。いま、私たちが暮らすコミュニティの質があらためて問われています。コロナ後そしてこれからのコミュニティは、新たなコミュニティの創造について考えます。

##### 第4回「心理的安全性を高める人材育成～コーチング教材の作成と実演～」 経済学部：厨子 直之

コロナ禍で急速に進化したリモートワークは、コロナ収束後も継続される見込みが高いです。空間的に離れた場で仕事を進める際に重要になるのが、心理的安全性(自分の意見や考えを素直に発言できる雰囲気)です。心理的安全性を促進する人材育成の手法の1つに、コーチングがあります。受講生にはコーチング教材を実際に作成し、実演していただくことを通じて、リモートワーク下で心理的安全性の高い職場づくりにつながる具体的手法について習得することを目的とします。

##### 第5回「コロナ禍における教育とICT」 教育学部：豊田 充崇

コロナ禍によって、GIGAスクール事業(タブレット一人一台体制)が急速に進みました。オンライン授業をはじめ、学校現場では何が変わったのか。その成果や課題はなにか。そして和歌山の抱える教育の諸課題に「GIGAスクール」でどのようにアプローチしていくのか。今後のICT活用教育の方向性と可能性を考えます。

##### 第6回「ポストコロナで求められるジャーナリズムの役割と責任」 非常勤講師：鈴木 裕範

100年に一度という災禍のもと、フェイクニュースや無責任な情報が飛び交う中でジャーナリズムが果たすべき役割は何なのか。社会の狭間におかれた忘れられた人々への視点は?地域社会とともにあるローカルメディアの側に立ち、コロナ後の社会報道の在り方を検討します。

#### 【到達目標】

コロナ禍やコロナ後における「福祉・労働」「心理的安全性」「メディアの活用や情報リテラシー」「レジリエンス」に関する知識を得て、自分の考えを述べるができる。多様な社会環境で暮らすための情報を正しく得て活用することができる。

#### 【教科書】

「レジリエンスの教科書 逆境をはね返す世界最強トレーニング」

カレン・ライピッチ アンドリュウ・シャター著(草思社、2015年) ISBN: 9784794221308 (第1回授業用)

第2回以降は使用しません。必要に応じて資料を提供します。

#### 【参考書】

「コロナ後の世界を生きるー私たちの提言ー」村上陽一郎編(岩波新書、2020年) ISBN: 978-4-00-431840-8

他の参考書は授業時間中に紹介します。

#### 【成績評価の方法】

レポート100% 各担当者がレポートの課題・テーマを設定し、授業時間中に説明します。

#### 【授業時間外学修についての指示】

授業後、内容の復習をしっかりと行ってください。予習課題を必要とする場合には、担当講師から事前に連絡します。

#### 【履修上の注意・メッセージ】

授業中、ディスカッションの時間を多くとりたいと思います。参考書などを利用して予習をし、積極的に参加してください。

※基本的に授業は対面での実施を予定しますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。

|  |   |                              |        |
|--|---|------------------------------|--------|
| 授業科目名<br>(英文表記)  | 癒しとメンタルヘルス<br>(Healing and Mental Health) |                              |        |
| 単位数  | 2 (学部生のみ)                                 | 授業形態                         | 講義     |
| 担当教員   | 藤永 博、片渕美穂子、彦次 佳                           |                              |        |
| 開講   | 南紀熊野サテライト                                 | 区分                           | 学部開放科目 |
| 実施日・時間   | ① 5月21日(土) 13:00~17:00                    | 彦次 佳 (教育学部)、川乗 賀也 (同朋大学)     |        |
|  | ② 6月25日(土) 13:00~17:00                    | 片渕美穂子 (教育学部)                 |        |
|  | ③ 7月2日(土) 13:00~17:00                     | 藤永 博 (経済学部)                  |        |
|  | ④ 7月9日(土) 13:00~17:00                     | 彦次 佳 (教育学部)、川乗 賀也 (同朋大学)     |        |
|  | ⑤ 7月30日(土) 13:00~17:00                    | 藤永 博 (経済学部)、関守 研悟、藤篁 庸一      |        |
|  | ⑥ 8月20日(土) 13:00~17:00                    | 藤永 博 (経済学部)、橋本 公雄 (九州大学名誉教授) |        |
| <b>【授業の概要・ねらい】</b><br>この授業は、メンタルヘルス(心の健康)について、「癒し」の観点とストレスマネジメントあるいは感情マネジメントの観点から展望する。「癒し」をテーマとする授業ではアニマルセラピーについて、さらにその基盤にあるべきアニマルウェルフェアについて取り上げる。ストレスマネジメントあるいは感情マネジメントをテーマとする授業では気功(導引術)、心身のリラクゼーション、ポジティブ心理学の考え方などを取り上げる。   |   |                              |        |
| <b>【授業計画】</b><br><b>第1回「導入」「メンタルヘルスとアニマルセラピー」</b> 彦次 佳(教育学部)、ゲスト講師：川乗 賀也(同朋大学)<br>講義前半(川乗)は、「メンタルヘルスに関する自己評価尺度」などを活用し自分の状態を知ってストレス解消のひとつの方法としての「アニマルセラピー」を学ぶ。後半(彦次)は、オトナのスポーツの楽しみ方として①健康づくり・体力づくり・体型づくりを目的とする「ヘルススポーツ」、②技を磨き競い合うことを楽しむ「マスターズスポーツ」、そして、③余暇充足や趣味としての楽しさを満喫する「レジャースポーツ」を紹介し、中でも、「レジャースポーツ」によるリラクゼーションとその可能性について学びを深める。  |   |                              |        |
| <b>第2回「からだところをつなぐ気功ー江戸時代の養生書からー」</b> 片渕美穂子(教育学部)<br>東洋医学には精神科がないように、東洋医学では身体的なものと精神的なものを区別することなく一体として考える。自分で行う健康法としての気功は、からだの緊張とこわばりを解き、同時にこころの安らぎと活力を得ることができる。授業では、江戸時代の養生書に掲載された気功(導引術)の実践と解説を行う。運動ができる服装で参加すること。  |   |                              |        |
| <b>第3回「動物が幸福を感じる時」</b> 藤永 博(経済学部)、ゲスト講師予定<br>動物(人間も含め)は互いの感情や情動を理解することができるだろうか。第3回の授業では、互いに癒し、癒される人間や他の動物の「心の繋がりに」焦点をあて、人間だけではなく他の動物のウェルビーイングについても考えてみる。ゲスト講師として動物園飼育者を招き事例紹介をしていただく予定である。   |   |                              |        |
| <b>第4回「スポーツリラクゼーション」</b> 彦次 佳(教育学部)、ゲスト講師：川乗 賀也(同朋大学)<br>太地町くじら博物館での講義・見学・カヌー体験<br>第1回目で紹介したレジャースポーツによるリラクゼーションについて、実際にそのプログラムを体感し(カヌー体験)、どのような効果が得られるかを実証する。その後それらの体験を通じた、当地におけるレジャースポーツによるリラクゼーションプログラムについて開発・提案を目指してプランニングしていく。<br>カヌーでの演習体験を予定するが、天候等により予定を変更することがある。  |   |                              |        |
| <b>第5回「感情マネジメントと癒しの心理学」</b> 藤永 博(経済学部)、ゲスト講師：関守 研悟氏(南紀白浜 聖福寺住職)、藤篁 庸一氏(NPO白浜レスキューネットワーク理事長、白浜バプテスト基督協会牧師)<br>「癒し」は多義的な言葉である。もともとは宗教的な意味を持つ言葉であるが、現代社会では心身をリラックスさせるという意味で用いられる。第5回の授業では感情マネジメントの視点から「癒し」について、さらには「命」について、ゲスト講師とともに考えてみる。「禅を生活に活かす」(関守)「あなたを諦めない」(藤篁)  |   |                              |        |
| <b>第6回「運動・スポーツの再考ーポジティブ心理学の視点からー」</b> 藤永 博(経済学部)、ゲスト講師：橋本 公雄(九州大学名誉教授)<br>人間のポジティブな側面に目を向け、よりよい生活の構築を目指すポジティブ心理学の視点から、ストレスの捉え方、人間の長所の活かし方について、運動・スポーツを絡めて話題を提供する。  |   |                              |        |
| <b>【到達目標】</b><br>心の健康に関する諸問題について自らの考えを述べることができる。<br>実践可能なストレス解消の手段を獲得する。   |   |                              |        |
| <b>【教科書】</b><br>使用しません。適宜、資料を提示します。  |   |                              |        |
| <b>【参考書】</b><br>「感情マネジメントと癒しの心理学」 久保真人 朝倉書店<br>「動物が幸せを感じる時」 テンプル・グランディン NHK出版<br>「ママ、最後の抱擁 わたしたちに動物の情動がわかるのか」 フランス・ドゥ・ヴァール 紀伊国屋書店<br>「あなたを諦めない自殺救済の現場から」 藤篁庸一 いのちのことは社   |   |                              |        |
| <b>【成績評価の方法】</b><br>レポート100% 各担当者がレポートの課題を設定し、授業時間中に説明します。   |   |                              |        |
| <b>【授業時間外学修についての指示】</b><br>授業後、内容の復習をしっかりと行ってください。<br>予習課題を必要とする場合には、担当講師から事前に連絡します。   |   |                              |        |
| <b>【履修上の注意・メッセージ】</b><br>(1) 第1回、第2回、第5回、第6回はオンライン(Zoom)でもサテライト(対面)でも受講可能です。第3回と第4回は白浜町と太地町でそれぞれ授業を行います(学生バス(無料))を運行します。施設入場料が必要になる場合があります。「わかやま沿岸域の環境問題」(教養科目)の受講生と合同で行う実習です。バス発着場所(大学他)や時間等の詳細は授業初日にご案内します。<br>(2) 授業中、ディスカッションの時間を多くとりたいと思います。配付資料(Moodle)や参考書などを利用して予習をし、積極的に参加してください。<br>(3) 新型コロナウイルスの感染状況によっては、すべての回をオンラインで行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要のパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。 |   |                              |        |

|   |  |      |        |
|---|--|------|--------|
| 授業科目名<br>(英文表記)   | 地域づくりの理論と実践C ※開講できない場合があります。下記を参照<br>(Strategic regional/community management C) |      |        |
| 単位数   | 2 (学部生のみ)【通年】  | 授業形態 | 講義・実習  |
| 担当教員  | 大浦 由美、岸上 光克、(ゲスト講師：藤田 武弘)  |      |        |
| 実施場所  | 秋津野ガルテン (和歌山県田辺市上秋津4558-8)   |      |        |
| 実施日・時間  | 下記「授業計画」のとおり   | 区分   | 学部開放科目 |
| <p><b>【講義概要】</b></p> <p>少子高齢化が進展する日本では、都市と農村との格差が拡大し、農村では“限界集落”が増加するなどの問題が起こっている。しかし、その一方で食の土台となる第一次産業の営みや農山漁村での暮らしに対する都市住民の関心も高まっている。そして、農村においても「地域資源の活用」「農工商連携」「都市農村交流」など様々な取り組みが進められている。なかでも、都市農村交流における「鏡効果」の存在は、農山村再生の手法としても大いに注目を集めている。近年、総務省がふるさと地域づくりを支える多様な担い手として提起した「関係人口(長期的な定住人口でも短期的な流動人口でもなく、当該地域や住民と多様に関わる者)」づくりは、まさにこのような交流を土台に拡がりをもせるものと考えられる。本講座は、農業・農村の現状に対する「当事者意識」に裏付けられた深い共感と問題関心を有し、且つ新たな地域づくりの担い手として注目される「関係人口」を創出する上でのコーディネーターとしての役割を果たしうるホスピタリティ豊かな地域づくり人材の育成を目的として開講する。</p> <p><b>【授業計画(通年)】</b> ※授業計画については、詳細なスケジュールが決まりしだい、<br/>ホームページ(南紀熊野サテライト：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/nanki-kumano/">https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/nanki-kumano/</a>)等で公表いたします。</p> <p>〈前期〉〈視座1〉：〉 (土日開講)(土曜2講義+日曜1講義)<br/>         〈視座2〉：〉 (土日開講)(土曜2講義+日曜1講義)<br/>         〈視座3〉：〉 (土日開講)(土曜2講義+日曜1講義) ※8月初旬頃を予定<br/>         〈後期〉〈視座4〉：〉 (土日開講)(土曜2講義+日曜1講義)<br/>         〈視座5〉：〉 (土日開講)(土曜2講義+日曜1講義)</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>本学では「域学連携」の観点に基づく地域での多様な実践型教育・研究が行われている。本講義の受講者が、それら地域での実践的な学びを自ら深めていくことを期待したい。なお、本講義は江頭ホスピタリティ事業振興財団の「寄付講義」として開講されることから、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響等の教育効果の検証を行う予定である。</p> <p><b>【教科書・教材】</b></p> <p>毎回レジュメ・資料を配布する。</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>○橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編「都市と農村—交流から協働へ—」日本経済評論社、2011年。<br/>         ○藻谷浩介・NHK広島取材班「里山資本主義」角川書店、2013年。<br/>         ○岸上光克「廃校利活用による農山村再生」JC総研ブックレット、筑波書房、2015年。<br/>         ○小田切徳美「農山村は消滅しない」岩波新書、2015年。<br/>         ○藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著「現代の食料・農業・農村を考える」ミネルヴァ書房、2018年。</p> <p><b>【授業時間外学修についての指示】</b></p> <p>本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する課題に調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。</p> <p><b>【履修上の注意・メッセージ】</b></p> <p>地域の再生は、一朝一夕に叶うものではない。常に「現場(実態社会)が先生」であるという謙虚さと熱意をもって、社会人などの多世代の人々とともに地域の悩みを共有しながら根気強く問題解決に取り組もうとする受講生を歓迎する。なお、週末の土曜日開催(土曜日2講/日曜日1講とまとめ)というスタイルの講義以外に、オプションで関連するフィールドワーク(現地視察や農家民泊・農作業研修など)が提供されるので、これにも積極的に参加してほしい。</p> <p>※記載の講義順や内容は変更することもあります。</p> <p>※この講義は開講を予定していますが、寄附講義(外部の寄付金に基づき運営される講義)であるため、その寄付金について、交付か否かの通知があるのが1月末頃の見込みですので、それを受けて開講するかしないか、正式な決定については、あらかじめホームページ(南紀熊野サテライト：<a href="http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano">www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano</a>)等で公表いたします。(2月初旬～中旬)</p> <p>→この講義を受講したい方は、開講の有無を確認後、申し込みを行うようご注意ください。</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮して、遠隔講義(オンライン授業やDVDなど)を導入する可能性があります。又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。</p> |  |      |        |

# 郵便はがき

ここに  
63円切手を貼付  
してください。



|    |   |
|----|---|
| 住所 |   |
| 氏名 | 様 |

⑦

※以下は大学側記載欄なので、記入しないで下さい。

## 令和4年度学部開放授業申請書類《前期》受付通知

- 【科目名】
- 経営人類学
  - コロナ後の世界と私たちの生活
  - 癒しとメンタルヘルス
  - 地域づくりの理論と実践C

あなたの令和4年度前期和歌山大学南紀熊野サテライト学部開放授業の申請書類を受付いたしましたのでお知らせいたします。

なお、授業開始案内(教室等お知らせ)は、授業開始日の10日前頃に郵送します。

〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9-102  
和歌山県立情報交流センターBig・u内  
国立大学法人 和歌山大学南紀熊野サテライト

- 注) 1. 郵便番号、住所、氏名を記入し63円切手を貼り、申請書類を郵送時に同封してください。  
2. 63円切手の貼付けの無いものは送付できません。  
3. 申請用紙を窓口に持参する場合は、はがきの提出は不要です。



### 〈新型コロナウイルスへの対応について〉

新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、本募集要項の日程・内容等が変更される可能性があります。

詳しくは、和歌山大学南紀熊野サテライトホームページで確認してください。

### 〈気象警報発令時の授業の取扱いについて〉

授業会場の所在市町村(田辺市、新宮市)に「暴風警報」または「大雨警報」が発令された場合は、発令期間中の授業は休止となります。

詳しくは、南紀熊野サテライトホームページを参照してください。

和歌山大学南紀熊野サテライトホームページ

<https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/nanki-kumano/>

### 〈個人情報の取り扱い〉

本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」等に基づき、厳密に取り扱います。